

TOPICS

1

異分野基礎科学研究所の菅倫寛教授が 国際光合成学会の「The Robin Hill 賞」を受賞！



異分野基礎科学研究所の菅倫寛教授が8月3日、国際光合成学会の「The Robin Hill 賞」を受賞しました。同賞はRobin Hill氏の光合成研究への貢献を称えて設立されたもので、同学会に所属する若手研究者のうち、光合成過程の物理的側面に関する研究において顕著な研究成果を輩出したものに対し、国際光合成学会の年会において授与されます。

この度、菅教授の「光合成の酸素発生の分子機構と光合成関連の膜タンパク質複合体の立体構造」に関する研究に対して、光合成研究の発展への貢献が認められ、The Robin Hill 賞が授与されました。菅教授は8月3日、ニュージーランドにて開催された年会にて受賞講演を行い、賞状を授与されました。同賞の受賞は日本の研究機関に所属する研究者としては初めての受賞となります。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11421.html



TOPICS

2

立ち上がれ社長候補生！岡大ピッチコンテスト2022を開催

7月16日、学生・教職員らが新規事業のビジネスプランについて競う「岡大ピッチコンテスト2022」を津島キャンパスで開催し、約170人が会場及びオンラインで参加しました。コンテストは、岡山大学内外のさらなる創業機運醸成、事業アイデアの発掘を目的としたもので、今回が初開催となります。

コンテストには、合計28組のエントリー者の中から、書類選考により勝ち残った12組がファイナリストとして登壇。ビジネスプランを工夫を凝らして短時間でプレゼンテーションし、熱い戦いが繰り広げられました。審査の結果、患者への対応方法など薬剤師の業務を疑似体験し、AIが苦手な分野などを指摘してくれる「AIアルゴリズムを活用した薬剤師教育サービスの提供」について発表した岡山大学病院薬剤部の牛尾聡一郎助教が最優秀賞に選ばれました。本イベントは、学生・教職員の大学研究シーズ社会実装やベンチャー活動を促進するため、イノベーションマネジメントコア ベンチャー支援フィールドが実施しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11393.html



Pick up!

3年ぶりに来学方式を含むオープンキャンパスを開催！



8月6日、7日、9日、10日、津島キャンパスで来学方式のオープンキャンパスを開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度、2021年度はオンラインで開催しましたが、今年度は感染対策を行ったうえで、3年ぶりに来学方式により開催。そのほかライブ配信方式、オンデマンド方式のWebオープンキャンパスも取り入れ、複数の方式で実施しました。

来学方式のオープンキャンパスは8学部とグローバル・ディスカバリー・プログラムで開催。各学部の紹介や入試制度の説明のほか、研究室や農場の見学、本学の在学生や教員との相談会など、多彩な催しが開かれました。参加した高校生らは熱心にメモを取ったり、入試制度や大学の講義内容、将来の進路などについて積極的に質問をしていました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11403.html



TOPICS

3

本学代表学生がOne Young World 2022日本代表団壮行会に出席

9月5日～8日にイギリス・マンチェスターで開催される世界ユースサミット「次世代リーダー・グローバル・サミットOne Young World(以下OYW)」2022マンチェスター大会(One Young World 2022 Manchester Summit)日本代表団の一員として、歯学部5年の棚井あいりさんとGDP3年のロシーナ・モタポさんが、東京で8月5日に行われた日本代表団壮行会に出席しました。壮行会では、代表理事・大久保公人氏のあいさつに続いて、OYW大学連携ネットワークの設立記念発表会が行われ、本学の上席副学長(特命(グローバル・エンゲージメント戦略)担当)の横井篤文教授がステージに登壇し、今後のネットワーク拡大に向けたスピーチを行いました。交流会では、参加者同士で積極的な交流が行われ、OYW 2022に向けて互いに士気を高めました。

棚井さんとモタポさんはOYW 2022マンチェスター大会において国際セッションでの討論やワークショップ、ネットワーキングなどに参加し、国連の持続可能な開発目標SDGsを枠組みとしながら、活発なディスカッションを行う予定です。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11407.html



TOPICS

4

グリーンイノベーションセンター セミナー・意見交換会を開催

本学は7月27日、本年4月に設置した「グリーンイノベーションセンター(GIC)」の活動内容と工学部「都市環境創成コース」(2021年4月設置)に新たに採用した建築系教員を紹介し、今後の連携関係を深めていくことを目的に、岡山県内に活動拠点を置く関連企業・団体の方々を対象としたセミナー・意見交換会を開催し、約30人が参加しました。

冒頭、阿部匡伸センター長からGICの活動紹介、中村昇教授および福本晃治准教授から、木質材料学および木質構造設計学について、グリーンbyデジタル部門の野上保之教授および珠玖隆行准教授から、地域のDX推進に向けた取り組みについて、講演がありました。

意見交換では、「木造建築の高層化・大規模化」、「木材利用の付加価値向上」、「森林、林業のことを理解している建築家の育成」などをテーマに活発な議論を行いました。参加者からは「今後も、大学の教育研究内容に関して発表・意見交換の場を設けてほしい」、「HP等で活発な情報発信をお願いしたい」といった要望も出され、盛会裏に終了しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id11388.html

PRESS
RELEASE

イネのカドミウム集積を抑制する遺伝子の同定により、収量と食味に影響しない低カドミウム集積イネの育成に成功！

資源植物科学研究所の馬建鋒教授らのグループは、イネのカドミウム低集積の分子機構を解明し、カドミウム低集積イネの育成に成功しました。本研究成果は8月18日、世界のトップジャーナル「Nature Food」にOnlineにて公開されました。

カドミウムはイタイタイ病などを引き起こす有毒の重金属です。現在でも都市化や工業化によって世界の多くの土壌がカドミウムに汚染され、基準値を超える作物が生産されて、我々の健康を脅かしています。また、我々が摂取するカドミウムの半分近くはコメに由来します。

本研究では、イネのカドミウム集積の品種間差を利用して原因遺伝子の単離を行ったところ、インドで3千年前から栽培されている在来品種のカドミウム低集積性は、根で発現するカドミウム/マンガン輸送体遺伝子OsNramp5が重複していることに起因することを突き止めました。また繰り返し交配でこの遺伝子をコシヒカリに導入したところ、収量と食味には影響せず、カドミウム集積が大きく低下したイネができました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id995.html



馬教授

